

# 7月7日(水)

午後4時～午後7時(午後3時40分開場)

会場: 港区立商工会館2階研修室

東京都港区海岸 1-4-28 / 電話:03-3433-0862

●最寄り駅: JR浜松町駅北口から竹芝桟橋方面へ徒歩7分  
都営地下鉄浅草線・大江戸線大門駅B2出口より徒歩10分



## ◇ビデオ学習会 《731部隊の国家犯罪を裁く》

### 731部隊員の証言/第31回

資料代500円

# 731部隊員の回顧録— 平房三角会を取材して

## 解説 近藤昭二さん(ジャーナリスト)

戦後、元731部隊の参加者たちは、1950年代から、複数の団体をつくり会合をもってきました。例えば軍医・技師・航空班などは「精魂会」を、少年隊などの軍属は「房友会」を、また各支部(牡丹江・林口・海拉爾・孫呉)でも戦友会をつくり体験を語り合ってきました。

今回のビデオ学習会では、近藤さんが1993年に行った教育部所属の兵隊たちの「平房三角会」への取材時のビデオを上映し、731部隊員の体験供述を分析、解説します。

### 《今も政府が認めない731部隊とは?》

日本軍中枢は国際法を無視して細菌戦を構想した。1936年、細菌戦部隊の関東軍防疫部を設け、ハルビン郊外の平房に大規模な施設を建設。1940年、同施設を本部とする「関東軍防疫給水部」が設けられ、翌年から731部隊と呼ばれた。

731部隊では、細菌兵器の開発・製造のため、3千人を超える中国人・韓国人・ロシア人などが敗戦までに虐殺された。他方、細菌作戦は、1940年から1942年まで中国の浙江省や湖南省などで実施されペストやコレラを大流行させ少なくとも3万人を虐殺。1944年以降、731部隊は米軍へも細菌戦の発動を準備していた。

### 【講師紹介】

著書:『生物兵器作戦』(社会科学文献出版社 2019)、『731部隊・細菌戦資料集』(柏書房 2003)、『死の工場—隠蔽された731部隊』(シェルダン・ハリス著、近藤昭二訳 柏書房 1999)ほか。731部隊に関する論文多数。

脚本: チェルノブイリ原子炉爆発事故前年に上映された日本の原発事故を取り上げた映画「生きてるうちが花なのよ死んだらそれまでよ党宣言」(ATG配給、主演・倍賞美津子)の脚本執筆など。



## 731部隊問題関連裁判の裁判日程

## 傍聴をお願いします!

- ・衛生学校記事情報公開裁判【東京地裁民事第51部】/103号法廷/6月23日(水)午後3時
- ・化学学校記事情報公開裁判【東京地裁民事第3部】/703号法廷/8月4日(水)午前11時

主催: NPO法人 731部隊・細菌戦資料センター 2021.06.01

(共同代表 近藤昭二 [ジャーナリスト]・王選 [細菌戦犠牲者遺族、上海交通大学客員教授]・奈須重雄 [731部隊研究者])

◆お問い合わせ: 一瀬法律事務所: 東京都港区西新橋 1-21-5/ Email: info@ichinoselaw.com 担当元永 (もとなが)

Tel:03-3501-5558 Fax:03-3501-5565 /◆ Website: <http://www.anti731saikinsen.net/>